

ラテンアメリカコレクション -- アメリカと日本の 関連図書館とアジア図書館 (特集 続・地域関連コ レクション -- 中東・アフリカ・ラテンアメリカ)

著者	村井 友子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジア研ワールド・トレンド
巻	186
ページ	21-24
発行年	2011-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00046216



特集 続・地域関連コレクション — 中東・アフリカ・ラテンアメリカ —

ラテンアメリカコレクション

— アメリカと日本の関連図書館とアジア研図書館

村井友子

● はじめに

本稿では、ラテンアメリカコレクションを所蔵するアメリカ、日本の主要図書館、およびアジア経済研究所図書館（以下アジア研図書館とする）の概要を紹介したい。

1. アメリカのラテンアメリカ関係図書館

世界で最もラテンアメリカ地域の資料を包括的に所蔵する図書館が集中している国は、アメリカであろう。

米国議会図書館 (Library of Congress) は、資料収集の拠点となる海外事務所を世界の六カ所に構え、各地域の一次資料、灰色文献、学術資料、新聞、雑誌等を包括的に収集している。ラテンアメリカ地域には、リオ・デ・ジャネイロに事務所があり、ブラジルを初めとする南米諸国の資料収集

および希少資料のマイクロ化プロジェクト等を推進している。また同図書館のヒスパニック課 (Hispanic Division) では一九三六年から今日までラテンアメリカ研究の主要論文・図書の解題書誌であ

る『Handbook of Latin American Studies』の編纂事業を行ってきた。約一三〇名の研究者の協力のもとで毎年約五〇〇〇タイトルの社会学・人文科学分野の研究成果の選定を行い、解説文を付けて書誌編纂を行っている。同ハンドブックは冊子体とオンライン版の両方で購読が可能であり、アジア研図書館は冊子体で初号から最新号まで所蔵している。

この他、アメリカには SALALM (Seminar on the Acquisition of Latin American Library Materials) と呼ぶラテンアメリカ地域を専門とするライブラリア

ンの組織（一九五六年創立）があり、資料収集やコレクション・ディベロップメント等に関する情報交換、書誌編纂、セミナー開催等の

活動を行っている。SALALMのスポンサーは、表1のとおり、ラテンアメリカコレクションを有する大学図書館等である。

中でもテキサス・オースチン大学 (University of Texas at Austin) のベンソン・ラテンアメリカコレクション (Benson Latin American Collection) は約九七万冊の蔵書を誇り、名実ともに世界最大級のコレクションとなっている。同大学が所在するテキサス州は、米墨戦争（一八四六～四八年）

表1 SALALMスポンサーメンバー

機関名	各機関のURL
The City College of New York Libraries	http://www1.ccny.cuny.edu/library/
Cornell University Library	http://www.library.cornell.edu/
Duku University	http://library.duke.edu/
Harvard College Library	http://hcl.harvard.edu/
New York Public Library	http://www.nypl.org/
Princeton University Library	http://library.princeton.edu/
Stanford University Library	http://www-sul.stanford.edu/
Tulane University Library	http://tulane.edu/libraries/
University of California, Berkeley	http://www.lib.berkeley.edu/
University of California, Los Angeles	http://www.library.ucla.edu/
University of Florida Libraries, Latin American Collection	http://www.uflib.ufl.edu/lac/
University of Illinois Library	http://www.library.illinois.edu/
University of Miami Otto Richter Library	http://alumni.library.miami.edu/ogrichter.html
University of New Mexico	http://www.unm.edu/libraries/
University of North Carolina at Chapel Hill University Library	http://www.lib.unc.edu/
University of Pittsburgh, Hillman Library	http://www.library.pitt.edu/libraries/hillman/hillman.html
University of Southern California	http://www.usc.edu/libraries/
University of Texas at Austin	http://www.utexas.edu/
Yale University Libraries	http://www.library.yale.edu/
Books from Mexico (メキシコ関係書籍取り扱い業者)	http://www.booksfrommexico.com/

でメキシコがアメリカに敗れる以前はメキシコ領であったという歴史的背景を持ち、メキシコと深い繋がりのある土地柄である。筆者が一九九三年に同図書館を訪問した際、メキシコ移民とは異なり、古くからこの地に居住するメキシ

カンアメリカン達の姿を目にし、カルチャーショックを覚えた思い出がある。当時の図書館長もそういったメキシカンアメリカンの女性であった。ペンソンコレクションは新大陸で初めて出版された典礼や音楽の教科書、ラテン系アメリカ人に関する資料、ラテンアメリカ諸国の様々な時代の一次資料、学術書など、多種多様な資料で構成され、重層的である。コレクションの一部は電子化され、Latin America Network Information Center-LANIC(<http://lanic.utexas.edu/>)という電子図書館のコンテンツとしてインターネット上でも提供されている。LANICではラテンアメリカ各国の情報リソースにも幅広くリンクが貼られており、ラテンアメリカ研究に欠かせない重要な研究情報ポータルとなっている。

このようにアメリカの図書館が充実しているのは、潤沢な資料購

入費、専門業者にプランケットオーダーするなど現地資料の包括的な収集体制の構築、ラテン系を含むラテンアメリカ地域を専門とするライブラリアンの存在など、恵まれた条件に裏付けられたものである。

これらの図書館は、世界のラテンアメリカ研究者や図書館に重要な研究情報を提供している。アメリカは図書館間ネットワークが最も発達した国であり、国際ILLを通して海外機関への資料貸借や文献複写を提供している。アジア図書館も今年度より日米ILLプログラムに加盟し、アメリカの主要大学図書館と文献複写のやりとりが出来るようになった。この他、アメリカの研究情報インフラの活用事例として、コレクションをマイクロフィルム化したものの購入がある。アジア図書館では、プリンストン大学が収集した一九八〇年代のラテンアメリカ諸国の人権擁護運動、都市貧困層の女性の生活扶助運動やフェミニスト運動等を伝える人権団体や女性団体の機関誌、活動集会の告知ポスターなどを集めたラテンアメリカ・パンフレットコレクションのマイクロフィルム、米国議会図書館が所蔵

するメキシコの初期の人口センサス（一九九五年に実施された第一回から一九四〇年に実施された第六回）を収めたマイクロフィルム等を所蔵している。

二.日本の関連図書館

翻って日本国内の図書館のラテンアメリカ関係コレクションは、アメリカに比べるとかなり小規模である。ラテンアメリカ関係の資料収集を継続し、ある程度まとまった規模のコレクションを所蔵する図書館には、弊館や本特集でご執筆いただいた国立国会図書館の他、神戸大学経済経営研究所図書館、上智大学イベロアメリカ研究所、筑波大学図書館、東京大学図書館、東京外国語大学図書館等がある。

神戸大学経済経営研究所（一九一九年、神戸高等商業学校の商業研究所として創設され、一九四九年に現在の経済経営研究所が発足）は戦前よりラテンアメリカの経済学、経営学分野の研究を行い、日本のラテンアメリカ研究の草分け的存在である。同研究所図書館は、福原八郎（南米拓殖会社の創始者）、野田良治（リオ・デ・ジャネイロ大使館参事官）両氏の寄贈

を基礎に一九三八年一月に開設された南米文庫を引き継ぐ形で収集した中南米の人文・社会科学関係コレクション約一万冊を所蔵している。

上智大学イベロアメリカ研究所（一九六四年設立）は、ラテンアメリカ関係の社会科学・人文科学・文学・歴史等の分野の約四万冊の蔵書および約八百タイトルの逐次刊行物を所蔵している。なお、同大学はこれまで各研究所単位に管理されていた地域コレクションを今年度より中央図書館で一元管理するようになった。イベロアメリカ研究所の図書は中央図書館六階の書庫に纏めて配架されている。資料収集はイベロアメリカ研究所の担当職員二名が担当しており、現地資料を海外の書店や版元から直接購入するなど、きめの細かい対応をしている。纏まったコレクションには例えば、「バラヤ文庫」（二六世紀以降の南米北部の歴史、地理、文学などに関する文献五〇一八冊で構成され、その中にはロンビアで初めて刊行された稀覯書六〇冊などが含まれる）、「井沢文庫」（外交官故井沢実氏が収集したラテンアメリカの歴史、経済に関する文献三八四冊）などが

あり、すべて同大学のオンライン蔵書目録(以下OPACという)で検索が可能である。本コレクションは学外にも公開されており、上智大学中央図書館の利用規程に従って閲覧することが出来る。

この他、特筆すべき電子図書館のコンテンツとしては筑波大学図書館が提供する元メキシコ大統領ポルフィリオ・ディアス文庫(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/tree/diaz.php>)がある。周知のとおりポルフィリオ・ディアス(一八三〇〜一九一五年)は一八七六年から一九一一年にかけて、三五年間メキシコで独裁者として君臨した人物である。この三五年間はメキシコ研究者より「ポルフィリオ」と呼ばれメキシコ近代史を刻む一時期とみなされている。同コレクションには、メキシコ近代史や革命史の研究者にとって重要な一次文献が多数含まれている。筑波大学貴重書コレクションとして収録されている四八八冊のうち四〇一冊が電子化され、インターネット上で全文情報

が閲覧可能となっている。ちなみにこのコレクションを同図書館が入手した一九八〇年代は筑波大学

比較文化学類に国際地域文化プロジェクト・ラテン・アメリカ部門が発足した時期でもある。その後電子図書館プロジェクトが一九九七年に開始され、貴重書の電子化が推進された。筑波大学図書館の方針により電子図書館のコンテンツはOPACと有機的にリンクされ、OPACの検索で、冊子体資料と電子資料の検索を一括して行うことができ、全文情報ともリンクが貼られている。

三. アジ研図書館ラテンアメリカコレクション

最後に弊館のラテンアメリカコレクションについてご紹介したい。

アジ研におけるラテンアメリカ研究は一九六三年に本格的に開始され、日本国内では、先述の神戸

大学経済経営研究所に次いで古い研究の歴史を持つ。アジ研図書館は発足当初から、日本の開発途上

国研究センターとしての役割を担うというミッションのもとに活動を開始し、ラテンアメリカ関係資料の収集は、ラテンアメリカ研究

部門発足と同時期に開始された。その後一九八四年にラテンアメリカ

力を含む三地域総合研究事業が発



軍事クーデター後、ピノチェト政権が公布した最初の官報(チリ) アジ研図書館で1966年から1993年までのマイクロフィルムを所蔵。

足し、事業を資料面から支えるための予算的措置がとられたことから、アジ研図書館地域研究資料の大幅な拡充が図られた。

アジ研図書館はラテンアメリカ地域関係資料を四万六七五五冊(二〇一一年一月現在)所蔵して

いる。その内訳は、ラテンアメリカ諸国の政府刊行物等、逐次刊行

物、法令集、学術書等である。この中で、大きな資料群となっているのがラテンアメリカ諸国の一次

統計資料一万八〇五七冊であり、このコレクションは研究所設立当初より旧統計部および図書館の資

料収集の担当者が各国の統計局と直接やりとりしながら地道に収集してきた成果である。近年ラテン

アメリカの国の中にはパラグアイやパナマなど統計局がインター

ネット上で統計情報を提供する代わりに、冊子体やCD-ROMでの

統計資料の刊行を大幅に減らした国も散見されるが、アジ研図書館では刊行資料がある場合はなるべく一次統計を網羅的に収集する

という方針を持っている。例えば、メキシコの人口センサスについては先述の第一回から二〇〇五年に

べての実施年の人口センサスを所蔵している。

特筆すべき法令資料としては、アルゼンチン法令年鑑 (Anales de Legislación Argentina) が有名。この年鑑は毎年一年間(前年)に制定された法律の全文を包括的に収録した年鑑で、一九四一年より今日まで継続的に刊行されてきた。これに加え一九五二年に刊行された補遺版(全四巻)には、アルゼンチン連邦制憲議会ですべて初めて制定された主な法令類が収録されている。アルゼンチンの建国から今日までの法律の制定と変遷の歴史が集大成されたこの年鑑はアルゼンチン研究者必読の一次資料といえよう。アジ研図書館は、第一巻(一九四一年)と第六七巻(二〇〇七年)と補遺版を所蔵している。

このように貴重な一次資料の収集はアジ研のラテンアメリカ研究者と図書館職員の連携により入手が可能となったものである。この連携により現地の一次資料の他、主要研究機関の学術書などが収集されてきた。

この他、現在購読中のラテンアメリカ地域関係の雑誌は一四六タイトルある。このうち九五タイト

ルはラテンアメリカの大学や研究機関とアジ研図書館が締結している資料交換(二〇一一年一月現在八八機関と資料交換を継続中)と寄贈により受け入れられている現地研究機関の学術雑誌である。一方現在購読中の新聞は八タイトルで、新聞については過去に購読していたものを含めると合計二三タイトルの新聞のマイクロフィルムコレクションがある。この中で特に希少性が高いのは、キューバ共産党機関紙であるGranmaである。

アジ研図書館はキューバ革命の年にあたる一九五九年から最新号までを、一部購読不能であった時期があるものの、所蔵している。ちなみに、今年度、キューバ労働組合総同盟(CTC)の機関誌(週刊) Trabajadoresのマイクロフィルム(一九九九〜二〇〇六年)をアメリカの出版社から購入した。近年インターネットやデータベースなど、新聞記事情報のアクセス方法も多様化している。しかしながらキューバなど情報の公開に制約がある国や、一九九〇年以前の新聞情報など、電子媒体の情報へのアクセスが難しい場合には、マイクロフィルムや紙媒体の資料が貴重な情報ソースとなっている。

●おわりに

以上、本稿では、アメリカ、国内図書館、アジ研図書館のコレクションを外観してきた。いうまでもなく、本稿で触れた図書館、コレクションは、ごく一部に過ぎない。より包括的にラテンアメリカ関係の資料の所在を調査されたい方には、国内についてはNACSIS-WebCat (<http://webcat.nii.ac.jp/>)^①の検索、世界の図書館についてはOCLC-WorldCat (<http://www.worldcat.org/advancedsearch>)^②の検索をお勧めしたい。

(本稿の執筆にあたり、筑波大学図書館および上智大学イベロアメリカ研究所の図書館スタッフの方にご協力をいただいた。ここに改めて謝意を表したい。)

(むらい、ともこ/アジア経済研究所 図書館)

(注)

①NACSIS-Webcatは、全国の大学図書館、研究機関の図書館が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベースをインターネット上で検索できるシステムである。同データベースは、国立情

報学研究所がサービスしている目録システムを通じて、参加図書館が共同作成している。

②OCLC-World CatはOnline Computer Library Center (OCLC)に参加する七一〇〇館以上の図書館の総合目録データベースである。世界九〇カ国以上の図書館が参加することデータベースを検索することで、世界中のどの図書館に必要とする資料が所蔵されているか知ることができる。

《参考文献》

●山田睦男「一九八三」『メキシコ大統領ポルフィリオ・ディアス蔵書コレクションについて』筑波大学附属図書館報「つくばね」一九九一年巻一

●森茜「一九九八」『筑波大学電子図書館の構想』筑波大学附属図書館報「つくばね」二三巻四号